



ボカシ和えをコンポスト化容器へ入れる

コンポスト化容器の工夫。上げ底・上げふたで通気性確保、網で虫やねずみ対策など

数日して温度が上がったら切り返しをして、水分を均一にしてやり、上に腐葉土をかけます。

これを繰り返して、容器がいっぱいになったら、もうひとつの容器に移します。このとき天地返しかたちになるので、上層にミミズがいっぱい住む完熟堆肥が出てきます。今度はこれを腐葉土の替わりに使うと、タネ菌堆肥として生ごみの分解促進・発酵安定に高い効果を発揮します。自家製の堆肥で堆肥をつくるという家庭内循環ができあがります。完成した堆肥は土に近いものになるので、量は少なく、庭木や草花に土のようにまいてやることで使い切ります。

水分・臭い・虫対策の工夫もいろいろとあります。コンポスト化容器は、レンガで底上げし、下から、5mmメッシュほどの金網を渡し、その上に園芸用の鉢底土を敷き、さらにその上にパーベキュー網を乗せています。水分除去・通気性の確保

のため、ねずみよけの効果もあります。また上部は、ふたをピタッとしないで、虫の侵入防止用に網戸の網とパーベキュー網を置いた上に、角材ですき間をつくってふたを乗せます。

以上から、さわやか堆肥づくりのポイントは、生ごみの水抜き、微生物活動をうながす腐葉土やタネ菌堆肥の供給、容器内での水分安定と通気性の確保、虫やねずみの侵入防止対策です。



奥の容器には完成した堆肥。ミミズも繁殖。これをタネ菌としてボカシ和えに混合